

比第五百八十一號

海軍少尉補甲斐直好死去御届

海軍少尉補甲斐直好

右者當朝鮮釜山浦草梁項ニ於テ去ル十一日陸地戦争調  
練之節野戰砲隊付ニテ出張平素人ニ譲ラサルノ性質ニ  
テ實地ニ望カ如ク山野ヲ跋陟シ善ク隊伍ヲ勵マシ激烈  
ナル動作之為心臟之麻痺ヲ起シ練兵場ニ倒レ候儘瞬間  
療養不相叶終ニ致死去候間別紙醫官診断書相添此段御  
届仕候也

比叡艦長

十一年十二月二十四日

海軍中佐澤野種鉄

東海鎮守府司令長官

海軍中将伊東祐磨殿

往入第八十號

七

イタノミ

0031

追テ前條死去候ニ付テハ差寄便船モ無之候ニ付當港  
我邦人墳墓地ニ埋葬致候尤本人遺髪等ハ當艦歸朝之  
上持歸候筈ニ付此旨同人家族へ御達相成度此段副申  
仕候也

比叡艦來組甲斐海軍少尉補於朝鮮釜山浦陸地調練之節  
練兵場ニ倒レ候儘死去致候義ニ付別紙醫官診斷書相副  
へ同艦ヨリ前書之通届テ出候處右ハ隊伍ヲ勵シ激烈ナ  
ル動作之為ノ心臓ノ麻痺ヲ起シ死去候義ニ付所謂公務  
上ニ死スル者ト同一視シ候ヲモ可然ヤト被相考候間猶  
篤ト御詮議ヲ被遂特別之御處分相成候様仕度此段申副  
候也

東海鎮守府司令長官

海軍中將伊東祐磨

十二年一月九日

0032

海軍卿川村純義殿

追テ追書之趣モ有之候間本人家族ハ本省ヨリ御達  
相成候様仕度此段モ申添候也

八  
海軍省

0033

東九甲第六百二十四號

漢年

0034

比叡艦衆組

海軍少尉補 甲斐直好

廿三年四月

稟賦強健其性頗ル勇剛活潑ニシテ小恙ナシ

十二月十一日朝鮮釜山港碇泊中偶々兵ヲ草梁項ニ練ル  
ニ方リ野砲兵ヲ指揮シ恰モ實地ニ臨ムカ如ク奮然トシ  
テ山野ヲ跋渉シ終ニ已レヲ忘レテ雄壯銳烈ナル勞動ヲ  
ナシ殆ント練兵半ヲ過キントスル頃眩暈即地ニ轉墮ス  
ル七八歩同時頻リニ激烈ナル心動ノ尤進ヲ覺エ且ツ煩  
渴苦悶甚キカ為メ利害ヲ顧ミルニ暇ナク野砲洗滌後ノ  
汚水ヲ飲ミ須臾ニシテ地上ニ卒倒ス地險ナルヲ以テ隊  
伍ノ者負擔シ來ル馳セテ之ヲ診スルニ顔色滲澹氣息脉

九

海軍少尉補

0035

搏廢止シ口唇紅色ヲ失ヒ瞳孔散大スルヲ見ル速ニ衣服  
ヲ解放シホフマン一ヲ水ニ和シ與ユ又々武蘭酒ヲ投  
シ胸部刺戟布頭部寒菴法等ヲ施シタルニ稍ヤ活機ヲ  
發シ微弱不整ナル心跳呼吸ヲ復起ス次テ嘔氣ヲ催シ來  
リ吐出スル丁三回之ヲ檢スルニ午時ノ食料品ニシテ他  
ノ異物ナシ吐後ノ景状少シク良候ナリ然レモ野外ニ在  
テ療護宜シキヲ得サルカ故ニ徐々之ヲ運送臺ニ安置シ  
家屋ニ移ス此時便意ヲ促シ泄瀉中昏瞑ノ状アルヲ以テ  
直ニ濟生醫院矢野大軍醫ニ議リ再々興奮劑ヲ投シタレ  
モ亦夕應効ナシ依テ呼吸喚起法或ハ電機種々療法ヲ盡  
タレモ終ニ驗ナクシテ遠寂ニ入ル  
抑モ練兵場ニ在テ卒倒シタルハ午後二時四十分前後ニ  
シテ死ニ陥リタルハ同三時三十分ナリ實ニ急劇ノ一奇

0036

症タリ蓋シ食後胃腑ノ膨脹未タ消化ヲ始メサルニ至速  
ノ激動窒素成分ノ火藥水ヲ飲ム等尤ヨリ大害不良ニ屬  
スト雖凡畢竟其死ヲ致シタル所以ノモノハ甚キ過激ノ  
循環ニ由ツテ心臟機能之ニ堪ユル能ハス早ク既ニ同部  
ノ麻痺ヲ起シ百方藥術ヲ盡シ纔ニ瞬間ノ活機ヲ呈スル  
ニ到底挽回復起ノ効ヲ脩ムルニ由ナク不幸ニ陥リタル  
モノト診案致候也

比叡艦乗組

明治十一年十二月

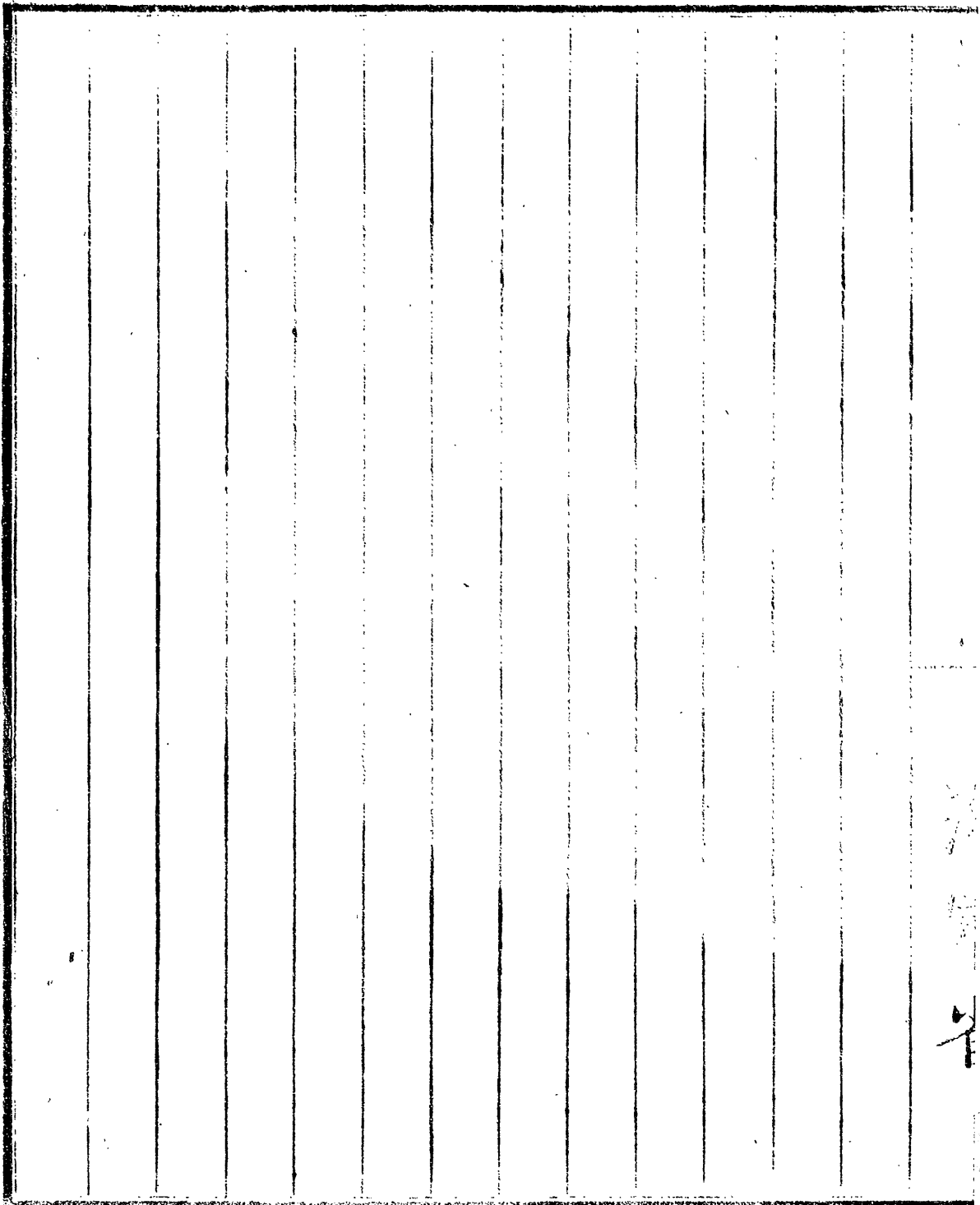
海軍中軍醫村瀬三英

海軍々醫副満田清光

十

目

0037



11

0038